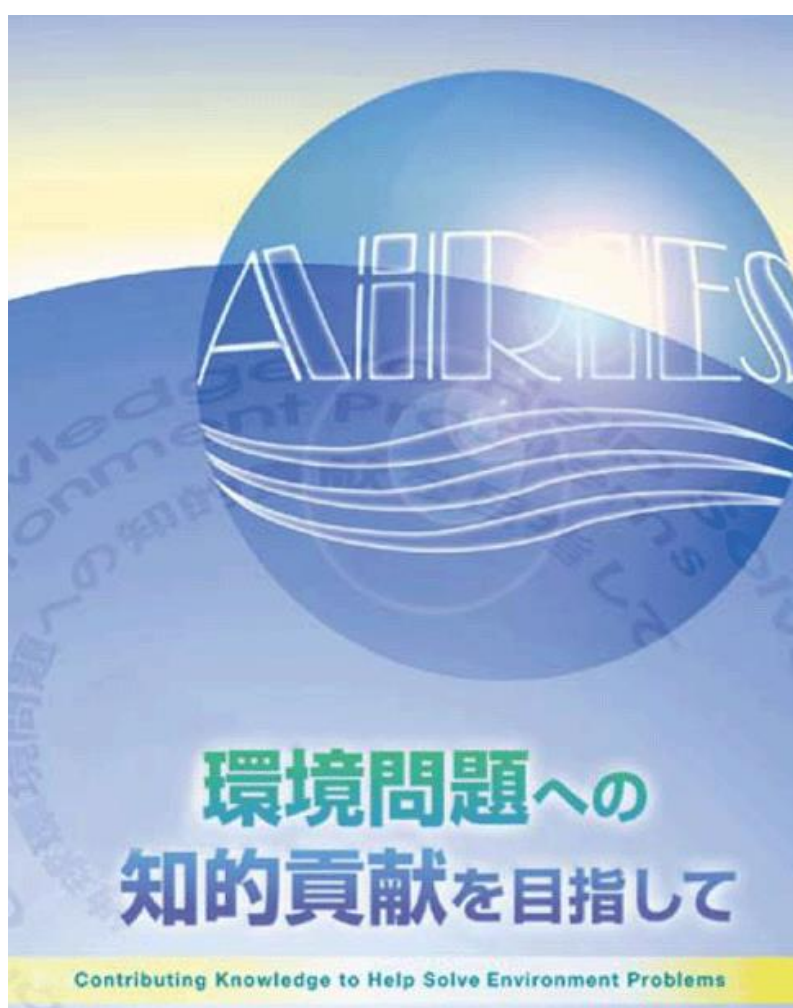


国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

2020年6月 第288号



CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 プログラムオフィサー自己紹介
CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業
小坂 満隆（こさか みちたか）
- 3 業務報告

協会業務報告

徳田博保(専務理事)

緊急事態宣言は解除されたものの、依然としてコロナ感染への用心を怠ることはできない状況ですが、いかがお過ごしでしょうか。

病院はもちろんのこと、鉄道、飲食店、コンビニなど現場での勤務が不可欠な場合も多いのですが、デスクワーク中心の会社は、在宅勤務を取り入れたところも多かったようです。

多くの会社では十分な準備をする間もなく在宅勤務を導入せざるを得なかったと考えられますが、そういう中で慣れない在宅勤務に入り、コロナ鬱とでもいうべき症状を訴える患者が急増したと言われました。

ただ、全体的には、警察庁の集計では4月の自殺者数は前年比で約2割減少し、日本生産性本部の調査によると6割弱の人が在宅勤務に満足しているということで、多くの人にとってはストレスが相対的に低い働き方だと言えるのかもしれませんが。

ストレスが下がったうえで業務効率が上がるのであれば理想的ですが、残念ながら必ずしもそうはなっていないようで、日本生産性本部の調査では、在宅勤務で仕事の効率が「やや下がった」「下がった」が3分の2程度を占めています。

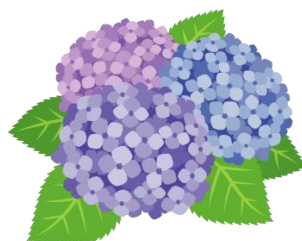
また、業務の要不要の見直しが「起こり得る」「どちらかと言えば起こり得る」もやはり3分の2程度になっていますが、実際、この機会に今後も在宅勤務を活用すると同時に年功序列型からジョブ型に変えていこうとする企業もあるようです。低いと言われ続けている日本のホワイトカラーの生産性の向上につながり、ピンチをチャンスに変えることができたと言えるようになる日が来るのでしょうか。

11月にグラスゴーでの開催が予定されていたCOP26は延期されるそうですが、コロナ下で一気に普及したオンライン会議が、様々な場面で活用されることになるかもしれません。約200か国の利害調整をオンラインで行うことは、ハードルが高いでしょうけれども、参加者が利用する航空機によるCO₂排出などの環境問題やコロナ感染が懸念される中で、今後の世界の大会議の手本になることが期待されます。

協会の業務も大きな影響を受けています。緊急事態宣言下ではほぼ完全に在宅勤務で、打ち合わせにはオンライン会議を活用しました。宣言解除後も在宅勤務の有効活用などに勤めています。各種検討会等も当然のようにオンラインで行うようになってきています。ただ、参加者が多い時に込み入った議論をするには多少無理があるようにも思えます。また、利用が集中し通信速度が遅くなるのが原因なのか、突如音声を通じなくなったり、画像が消えたりすることもたまにはあり、一室に皆が集まり議論するのと同様というわけにはいきません。さらなる技術開発に期待したいところです。

学術誌は英文の水銀特集号を編集中です。年度内には、さらに湖沼特集号(和文)と災害環境特集号(英文)の発行を予定しています。後者については、東日本大震災10周年にあわせた発行を予定していますが、通常のボリュームの2倍程度になる予定です。

引き続き、みなさまのご指導・ご支援のほど、よろしくお願いたします。



プログラムオフィサー(PO)自己紹介

CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業

小坂 満隆(こさか みちたか)

4月より環境省が推進する「CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」のプログラムオフィサー(PO)を務めることになりました小坂です。よろしくお願ひいたします。

私は、1977年に数理工学の修士を修了して電機メーカーの研究所へ入社し、2018年に北陸先端科学技術大学院大学を定年退官するまでの41年間、システム制御、情報システム、R&Dマネジメント、知識科学・サービス科学などのシステムの研究開発をそれぞれ10年間ずつ行ってきました。

最初の10年間は、大学で研究していた確率制御システムを実ビジネスに応用するもので、リモートセンシング用のLANDSAT画像処理システムの開発や航空・宇宙分野のガイダンス&コントロールシステムの開発などに従事しました。この間、1984年にテキサス大学宇宙工学科に客員研究員として1年間滞在し、米国の研究者と交流しました。次の10年間は、バブル期の情報システムビジネスの急拡大に合わせ、会社の方針で情報システムの研究開発を始めました。金融・証券システム、情報システム計画技法、知的意思決定支援システム、インターネットバンキングなどのインターネット応用システムの開発に携わりました。この間は、研究者といっても国内を対象にSE(システムエンジニア)と同じ様な活動を行っていました。会社生活の最後の10年間は、こうした経験を基に、研究所運営や新事業創成のマネジメントに携わりました。研究所運営では、研究組織の活性化に注力すると共に欧州や中国の研究所立ち上げや顧客との共創活動の推進を進め、新事業創成では、研究所で生まれた新技術の事業化やインバータによる省エネ・CO₂削減サービスビジネスに取り組みました。

研究・教育をしっかりとやりたいという思いから残りの人生を大学で送りたいという希望を持っていたので、55歳となる2008年にご縁のあった北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)の知識科学研究科へ赴任し、知識科学・サービス科学の教育研究を10年間行いました。特に、東京品川で実施している社会人教育でサービスイノベーションやR&Dマネジメントを企業人学生と議論し、その成果を著書や学会論文に発表しました。また、JAISTでは、アジアからの留学生が多く、私の研究室の卒業生も帰国後、大学をはじめ、アジアのいろいろな場で活躍しています。力を入れて取り組んだ活動として、アジア各国のビジネス成功事例をケーススタディとしてSpringer社から世界に発信することをこの分野のアジアの研究者と共同で進めました。これまで manufacturing servitization, entrepreneurship の2冊を出版し、定年退官後の現在も3冊目となる business innovation with new ICT の発刊に取り組んでいます。

この度のPOのお話は、システム制御分野で私の大先輩にあたる船橋前POからこれまでの経験を生かしてやってみないかと勧められたもので、社会システムや交通分野のCO₂削減をシステム科学の視点で検討することに取り組むたいと考えています。これまで素晴らしい人たちとの出会いを通じて充実したシステム研究を行ってきたように、これからは環境分野で新たに出会った人たちと新しい価値を共創したいと思ひます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



業務日誌



(2020年5月)

5/7(木):CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)

11(月):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

12(火):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

CO2 対策事業 応募相談会(Web 会議)

13(水):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

15(金):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

18(月):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

19(火):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

21(木):推進費制度 キックオフ会合に出席(Web 会議)

CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

22(金):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

26(火):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

27(水):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)

27(水),28(木):推進費制度 第 1 回戦略研究プロジェクト構築・

検討専門部会を開催(Web 会議)

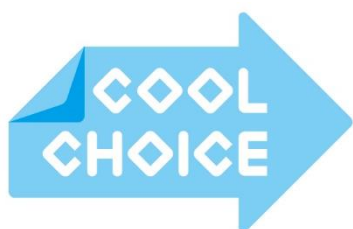
28(木):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

29(金):CO2 対策事業 キックオフミーティング(Web 会議)

* 推進費制度:環境研究総合推進費制度運営・検討業務

CO2 対策事業:CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・

実証事業管理・検討等事業



AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL:03-5812-2105

FAX:03-5812-2106

E-mail: airies@airies.or.jp

Homepage: http://www.airies.or.jp